

e-Byoin指標システム導入事例

医療法人社団 日本鋼管福山病院 様

医事データの収集・分析と可視化を通じ「病院の今」と「病院のこれから」の迅速な意思決定を支援！

事例のポイント

課題背景

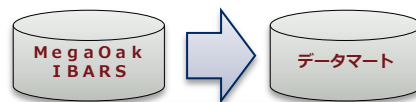
- ・名実ともに地域に根差した中核的な医療機関として、地域密着型の医療を実践されている日本鋼管福山病院様 信頼の医療を理念とされ「一步先を見据えた病院経営」は喫緊の課題と位置づけられていた
- ・医事システムの標準的な統計資料から、さらに一步踏み込む形で、病院経営分析に役立つシステムを自主開発されていたが、度重なる法令改正や診療報酬改定により、独自システムの維持、拡張が困難になりつつあった
- ・「病院の特色や強みを生かした病院運営の方向性については手探り状態であり、危機感を抱いていた」と、自らの責任の重さを院長の浜田史洋氏は語っておられます

成果

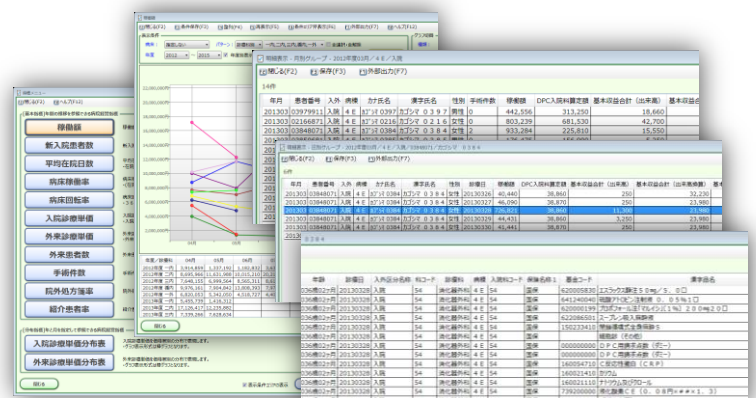
- ・e-Byoin 指標システムを導入し、標準で提供される13指標を経営会議資料として活用
⇒資料作成に要する時間や手間を大幅に短縮
- ・集計値の根拠について、ドリルダウン機能により詳細データを直ちに確認
⇒資料の信頼性向上
- ・医事データをより利用しやすいデータマートで提供
⇒各種統計帳票を手軽に作成
- ・グラフや一覧表作成後データファイルに抽出し、資料への転載や更なる分析等の二次利用が可能
⇒経営改善のための多様な意思決定の迅速化支援

導入ソリューション

- 医事データから分析に適したデータマートに展開
- グラフと一覧表でわかりやすく表示、さらにグラフや一覧の値からドリルダウンし、構成要素の詳細把握を実現
- 統計帳票作成もわずか数ステップで。目標管理、DPC（Dファイル）分析等オプション機能も充実



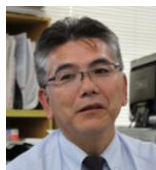
患者基本
患者住所
稼働額明細
入院明細
Dファイル患者明細 等



日本鋼管福山病院
院長
浜田 史洋 氏



日本鋼管福山病院
企画管理部 管理室 室長
曽根田 喜光 氏



日本鋼管福山病院
企画管理部 システム室
花岡 秀光 氏



NIPPON KOKAN FUKUYAMA HOSPITAL
日本鋼管福山病院

お 客 名：医療法人社団 日本鋼管福山病院
所 在 地：〒721-0927
広島県福山市大門町津之下1844番地

創 業 年：1971年

診 療 科：内科、消化器内科、外科、乳腺外科、
整形外科、産婦人科、小児科、形成外科、
泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、
麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、
歯科、小児歯科

支 援 部 門：看護部、薬剤科、臨床病理科、栄養管理科、
臨床工学室、透析センター、
健康管理科（健診センター）、
人間ドック室、地域連携部、医療情報部、
医療安全管理部、医療支援部

従 業 員 数：383名（平成27年8月1日現在）

病 床 数：236床（許可病床数）
（一般193床 回リ143床）

外来患者数：642人／日（平成26年度実績）



蓄積された医事データの収集・分析と可視化を通じ、 P D C Aサイクルの高速化を実現

導入前の背景や課題

■ 病院経営に活かせるデータ分析の構築が喫緊の課題

日本鋼管福山病院様は、日本鋼管（現 J F E スチール）福山製鉄所保健センターとして、昭和46年5月に開設されました。企業立の職域病院からの変容を遂げられ、現在では名実ともに地域に根差した中核的な医療機関として、広島県福山市を中心に地域密着型の医療を実践されています。しかし、同医療圏には他にも中核病院がいくつかあり、それらの病院との連携はもとより、「将来を見据えた自院の独自性追求にも取り組む必要があった」と、浜田史洋院長は語ります。

着目されていたのは診療データの分析。「医事のDWH構築を指向していました」と、システム室の花岡秀光氏は話します。しかし、本格的なDWHの構築は、費用が高いため導入をあきらめ、メーカーの協力を得ながら、独自システムを構築しました。

その後、度重なる法令改正や診療報酬改定により、独自システムの維持・拡張が困難になっていきます。

そのような中、2013年7月の国際モダンホスピタルショーで「e-Byoin 指標システム」を目にされ、「これはいいと直感した」と花岡氏は話します。その後院内のコンセンサス作りに努め、システム室に加え企画管理部にもシステム説明会に参加してもらい2015年7月に導入に至りました。

「経営層や診療部門に見ただけで理解してもらえる資料を作成したいが、医事システムに精通していないので、データを前にして手をこまねている状態だった」と、2013年に企画管理部管理室長に異動してこられた曽根田喜光室長は語ります。

選択のポイント

■ 医事システムに対応したDWHで コストパフォーマンスが高い

元々、臨床検査技師でありながら、システムに精通していた力量を買われて、現在のシステム室勤務になられた花岡氏は現場目線のデータ分析を得意としています。e-Byoin 指標システムを導入する前は、電子カルデや医事システムからデータ抽出を行い、それらを加工して、経営層から要望される資料作りを行ってききました。この加工部分であるデータマート作りに手間暇をかけてきましたが、e-Byoin 指標システムでは、医事システムから抽出したデータを流し込むだけで、データマートが作成されるので、自由統計が自在に作れるようになったと説明します。

■ 病院経営に有効な13指標を グラフと一覧表でわかりやすく提供

■ グラフや一覧表の値からドリルダウンして、 その数値の構成要素を詳細表示

企業の経営データ作成に精通していた曽根田氏ではありませんが、病院の経営分析担当者として苦労を重ね、「病院の今」がわかる資料作りを手掛けるようになりました。

「これからの企画管理部は、医事はよく分からないけど経営に関する知識と経験はあるという担当者が、増えていくと思います。医事システムに精通していなくても、病院経営に必要なかつ有意義な統計帳票や、経営層の意思決定の迅速化を支援する資料の作成ができるようになれば、病院経営改善の推進に大きな戦力となることが期待できます」と曽根田氏は語ります。

■ 目標設定シミュレーションにより 病院経営改善の推進を支援

「見える化が現場のモチベーション向上につながる」と、浜田院長は e-Byoin 指標システムによるデータ分析に期待を寄せています。

導入後の成果

■ 厚生労働省の主要公的医療機関等の概況調査や 日本医療機能評価機構による病院機能評価等を参考に、 13の指標による「病院の今」の把握が容易に

稼働額、新入院患者数、平均在院日数、病床稼働率、病床回転率、入院診療単価、外来診療単価、外来患者数、手術件数、院外処方箋率、紹介患者率、入院診療単価分布表、外来診療単価表

■ 集計値の構成要素の確認が可能

ドリルダウンは、最小単位である患者さんごとの明細まで参照することができるため、集計値の信頼性が向上するとともに、はずれ値の把握ができるようになりました。

■ 統計・帳票の簡単作成

これまでの医事システムよりもわかりやすいデータマート（ソース）を利用して、もっと簡単にエンドユーザーが自由に統計・帳票を作成できるようになりました。

■ 目標管理（シミュレーション）が可能

過去実績データ+病院独自の目標設定により、簡単にシミュレーションができます。今までより、具体的な目標値（イメージ）が見えてきます。目標稼働額に対する新規入院患者の獲得目標や平均入院日数に対する病床回転率など、季節性などの変動要因も加味した目標値が、迅速にシミュレーションできるようになりました。

■ DPC（Dファイル分析）

e-Byoin 指標システムは、病院経営改善を推進する機能として、Dファイルをインプットとして、DPCに関する4種類の分析をご提供しています。退院患者数分析、入院期間Ⅱ分析、平均入院日数分析、旧新比較分析。効率性指数の元となる全国平均入院日数と自院の実績を比較することで、全国との比較や自院の強み/弱みを把握できるようになりました。

NEC医療ソリューション事業部

〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1（NEC本社ビル）

TEL:03(3798)6756（ダイヤルイン）

www.megaook.com

●表示されている氏名や診療情報は、すべて架空のものです。
●画面は実際のものとは異なる場合があります。
●Microsoft Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
●本製品の輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合は、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お問い合わせの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。
●本製品は、MegaOak I BARSシリーズを導入されているお客様にご利用いただけます。なお、お客様の環境により機能に制限があることがあります。詳細は弊社営業担当者までお問い合わせ下さい。